

第1回就活相談会参加講師感想一覧

業界区分	卒業年	①今回、学生と会って感じたこと。	②イベントに参加して感じたこと。
①メーカー to C	—	卒業して15年以上たった今でも、就活の温度感があまり変わっていないように感じました。距離的なバイインドはあると思いますが、どこでも情報が取れる時代になったのにもったいないと思います。今回来てくれた学生は積極的な層だと思いますので、素直に様々な角度で質問してくれ、こちらに必要な情報提供が少しでもできていれば幸いです。	これだけ様々な企業から（しかも人事以外で）集まる機会はなかなかないのに、参加がふるわないのは正直もったいないと感じました。事前の告知や個別の声かけが課題なのか？場所をもっと柔らかい雰囲気のところに変えたらいいのか？等工夫の余地はあると思います。
①メーカー to C	H1卒業	就活はこれからということだと思いますが、おとなしい学生が多いと思いました。特に女性。行動力や積極性、主体性をもっと身に着けてもらいたいと感じました。予想以上に理系の学生が多く、文系の就職情報しか持っていないので、理系の学生には申し訳なかったです。	正直、筑波大生の就活に不安を感じました。できれば面接対策講座をやったほうが良いと思います。学生は、どんな自己PRや面接対策をすればいいのか、イメージできていないと感じました。シナリオ作って、受かる面接、落ちる面接のロープレやったほうが理解しやすいのではないのでしょうか？できれば自己PRの指導もしたいところです。
①メーカー to B	H15卒業	6月のこのタイミングで、具体的にどういう仕事に就きたいか明確でない（明確に出来ない）のは仕方がないが、そのような中、今回参加した学生は、就活に対して何かしらの目的意識をもって臨みたいという意思が感じられました。会社情報だけでなく、就職活動の仕方や職種の選び方など広範囲な質問が多かったことから、就職したいという意識は高いものと思います。あと、理系学生のほうが積極的に感じました。（当社のフィールドを考えると自然な事かもしれませんが）	既に社会で活躍している卒業生とつながりが出来ることは、私にとってもメリットを感じています。
②商社	H16卒業 H18修了	大学3年生が主ということで、これから就職活動を始めるといった段階の学生が多く、先ずは就職活動を終えるまでの全体のスケジュールを掴むことが大事なかなと思いました。	時代の変化が早く多様な価値観が共存する時代になっているので、10歳離れるだけでも、学生へ助言することの難しさがあると思っています。画一的な解答が存在しない時代、自分の納得できるキャリアを示せるのは自分しかないというのが基本原則ということを先ず学生に理解してもらい、OBである自分ができることは自分のケース、自分が見聞きしているケースを参考として提示することに留まるということを認識しつつ、学生とコミュニケーションを取ることが大事かと思いました。
②商社	H15卒業	私自身が入社する前に感じていた商社に対する疑問をどの学生も持っていたことで、自分自身の準備の不十分さを反省しました。学生の全体的な志向が事前にわからなかったこともあり、緩めに臨んだことも反省点だと感じています。大学2年、3年から就職活動に興味がある人自体は、（私と違って）比較的意识が高いものだと改めて痛感した次第です。	所属する組織の人事戦略に関しては従事した経験があるが、一般的な日本の人事部が携わるようなイベントは今回初参加でしたので、普段従事する業務の延長だけで考えてはいけないということを切に感じました。総合商社と比較した場合の専門商社など大枠な話が中心となった為、もう少し海外での経験などを出してもよかったのかと考えています。
③金融	S61卒業	今後の本格的な就活に向けて、幅広い年齢層の社会人と話をする「場慣れ」が必要だと思います。気兼ねなく話ができるこうした機会を、ぜひ活用していただければと思います。	私は学生さんから見れば親のような世代ですが、かつて筑波大学で学んでいた、という1点において、初対面の学生さんとも打ち解けて話ができ、楽しい時間を過ごさせていただきました。
③金融	H6修了	やりたいこととか、しっかりした問題意識を持っている学生が多かった。	初めての試みとしてよかったと思う。
③金融	H26卒業	就職活動で、まず何から手を付ければよいかわからないといった学生が多く感じました。まずは自己分析を確実に実施し、自らを見つめ直すきっかけを促すことが重要であると感じました。	就活意識の高い学生を集客することはできる為、人間性として魅力的であるものの就活意識が低い層にアプローチできればよりより取組になるのではないかと感じました。
④マスコミ	H20修了	より多様な（例：学年、専攻、デモグラフィック…）学生さんにお会いして、筑波大OBOG社会人がサポート出来たらと思いました。多様な業界で活躍されている経験豊富なOBOG陣を見ると、就活層学生との出会い限定閉じず、学業に閉じない、実践的な学びを得る機会（その1つの切り口としてキャリア形成・就活）に出来るような兆しも感じました。	大学・茗溪会、OBOG、学生、全てにとってより良い機会だと思いました。今後の更なる発展を期待していますし、私で出来ることがあれば協力させて頂きたいです。

第1回就活相談会参加講師感想一覧

業界区分	卒業年	①今回、学生と会って感じたこと。	②イベントに参加して感じたこと。
⑤IT	H18修了	進学も含め迷っている学生、業界理解を深めようとしている学生、既に業界を絞っている学生など多岐に渡る方とお会いできました。OBという共通項がある存在だからこそ初対面でも迷いを正直に話してくれていたのを実感いたしましたので、このきっかけは大事にしたいと思います。	物理的な距離もあり、直接お会いして話すのはなかなか難しいかと思っておりますので日常から距離を近づけるプラットフォームがあっても良いのではと感じました。イベント参加OBに気軽に相談できる窓口があると、顔を合わせた上でのコミュニケーションが図れるため、より深く交流できるのではと思います。
⑤IT (web)	H26卒業 H28修了	自らの就職活動について、大量の会社の中から自身にとって合いそうな会社を選ぶことに集中してしまい、自身が本当に何をしたいかに向き合っている人は少なかったように感じます。一方で、自身の得意なこと・好きなことを知るために必要な経験は十分にあり、対話によって引き出す・自覚してもらうことができたので、そういった機会があると良いかもしれません。	初回なこともあり、参加人数に不足を感じたときは不安でした。しかし、少人数の学生との対話には個別の話を深めていくことができるメリットがあるので、むしろ今後は講師一人あたりの人数を小さくできれば良さそうに感じました。
⑦サービス	S61卒業	我々の時代と比べて、実にまじめに将来のことを早くから（2年生でも）考えている人が多く、時代背景もあるのかと感じました。（我々の時代は、バブル直前で右肩上がりの経済環境で就職も何とかかなと楽観的だった） まだまだ視野が狭いので、もっと気楽に多分野の話を聞いて頂きたかったが、どうしても学生がイメージし易いB to Cの会社に偏ってしまった感じがしました。	正直申し上げて、参加者は少なかったと思います。4年生の就活が終盤になりましたが、まだ3年生にとっては先の話という感じの人が多かったのかもしれませんが、10月には、今回以上にイベントの情宣活動を強化して倍の人数を期待したいと思います。
⑦サービス	H21卒業 H23修了	私が学生だった頃（約10年前）と比べて就活に対する姿勢はあまり変わっていないと感じた。比較的明確なビジョンがあり、どういう仕事がしたいのかという希望や就活にあたって不安も話してくれた。	講師間の交流もあり、良かった。
⑧教員	—	教育には、全部で6名の学生が相談に来ました。大学院生、大学4年生、3年生でした。教員になることを心に決めているという感じではなく、教員も視野に入れつつ、教員の仕事について自分は向いているかどうか分からない、ということから相談に来たという学生もいました。教員採用試験に向けての研修会を実施しているので、その案内書なども配布しました。神奈川県採用試験を受験しようとしている学生には、神奈川県で教員をしていたK氏がいたので、相談に来た学生の疑問点をかなり具体的に解説してあげられたので、喜んで帰っていきました。	午後1時の会の開始の時には、学生が少ないなど感じていましたが、70人を超える学生が相談に来ていたことを聞き、良かったと安どしました。いい雰囲気、学生たちが先輩に相談しているという様子が見られました。とてもよかったですと思います。年に2回実施していく計画ですが、だんだん参加者が増えていくのではないかと見通しが立つと思われました。学生に、このような相談会があることを知らしめることが重要だと思いますが、相談者が増えればそれなりに大変になると思いますが、運営サイドも回を重ねながら改善していくことができるので、頑張っ続けていっていただきたいと思います。
⑨キャリア カウンセ ラー	—	相談に来た学生は、11人でした。 【内訳】 ・3年生 6人 (M3、F3) ・4年生 1人 (F1) ・M1 2人 (M1) ・M2 2人 (M1、F1)	—
⑨キャリア カウンセ ラー	—	最初の各人あいさつのところで、「私は毎日就職課にいるので他の先輩を優先してね」と言ったこともあり、私のところにはあまり来ないだろうと思っていましたが、結果は、T氏=8名、K氏=11名と予想外?に相談を受けました。相談内容を聞いて、「なるほど」と理由が分かりました。つまり、いろんな先輩と話したいのだけれど、方向性が決まってないのでどこに行って、何を聴いたらいいかも分からないというニーズを捨てていました。今後も「なんでも相談コーナー」は必要そうです。	—